

# 7. NPO法人広野わいわいプロジェクト（福島県広野町）

## ～「そうだ、広野に行こう！」プロジェクト～

### ① 取組背景・地域課題

- 広野町では、震災後の人口流出や若年層・子育て世代の帰還が進まないという課題に直面していた。
- その中で、広野わいわいプロジェクトは、津波の塩害により発生した耕作放棄地でのコットン栽培を主体として活動を開始。企業や首都圏大学生などをボランティアツアーにより呼び込み、地域住民との交流等を通じて「ひろのリピーター」が現れるまでになり、一定の成果を上げている。
- 今後、更なる事業の発展のため、広野町の魅力の発信と交流拠点の設置を通じた交流人口・関係人口の拡大を模索している。

### ② 支援体制

コーディネーター  
(支援事業者)

(株)日本総合研究所

外部専門家  
連携団体等

- NPO法人場とつながりラボ home's vi
- (株)エンジョイワークス

### ③ 本事業の目的と取組内容

地域住民と共に地域の魅力を再発見し、魅力を体験してもらう機会（イベントや拠点）の提供を通じて、「ひろのリピーター」を増やし、交流人口・関係人口の拡大を目指す

#### 取組①

#### 広野町の魅力を引き出すコンテンツ開発

- ⚡ 地域内外の住民を巻き込んだワークショップ等を通じて、地域資源の棚卸や地域資源を活用した地域の魅力を体験できるコンテンツの開発を行う。
- ⚡ ワークショップは複数回開催し、コンテンツのブラッシュアップを行うとともに、コンテンツ提供のための地域内の協力者の発掘も併せて実施する。
- ⚡ コンテンツは一覧として取りまとめ、今後整備する予定の交流拠点での提供を目指す。

- 広野町のコンテンツの整理
- 新たなコンテンツの開発 10件

- ワークショップの開催 3回
- コンテンツ開発への参加者 50名
- コンテンツ提供への協力者 5名

#### 取組② 地域内外の交流拠点・場づくりの検討

- ⚡ 地域内外の住民が交流できる拠点・場の設置に向け、コンセプトからマイルストーンの設置、事業計画案の策定までの検討を実施。
- ⚡ 先進地の視察や地域住民とのディスカッションを通じて具体化を進める。

- 事業計画案の策定
- 場の開設に向けたマイルストーンの設定